

内村鑑三著「代表的日本人 - 二宮尊徳(農民聖者) - 」

岩波文庫(ワイド版)、岩波書店 1997年9月16日刊を読む

農民聖者、二宮尊徳

- 1 . 農業は国家存立の基本である P78
- 2 . 字の読めない人間にはなりたくない P81
- 3 . 自然はその法にしたがう者には豊かに報いる P83
- 4 . 仁術さえ施せば、この貧しい人々に平和で豊かな暮らしを取り戻すことができる P86
- 5 . (1) 金銭を下付したり、税を免除する方法では、この困窮を救えない。まことに救済する秘訣は、彼らに与える金銭的援助をことごとく断ち切ること。  
 (2) かような援助は、貪欲と怠け癖を引き起こし、しばしば人々の間に争いを起こすもと。  
 (3) 荒地は荒地自身のもつ資力によって開発されなければならない、貧困は自力で立ち直らせなくてはならない。  
 (4) わが実り豊かな日本は神代に開かれたが、当時はみな荒地だった。外からいかなる援助もなく、自分自身の努力により、土地そのものの持つ資源を利用して、今日みられるような田畑、庭、道路、町村が成った。  
 (5) 仁愛、勤勉、自助 - これらの徳を徹底して励行してこそ、村に希望がみられる。  
 (6) もし、誠心誠意、忍耐強く仕事に励むならば、この日から 10 年後には、昔の繁栄を回復できるものではないかと考える。 P86 ~ 87
- 6 . 道徳力を経済改革の要素として重視する P87
- 7 . ただ魂のみ至誠であればよく天地をも動かす P88
- 8 . 天地はたえず活動していて、我々をとりまく万物の成長発展には止むときがない。この永遠の成長発展の法にしたがって、休むことさえしなければ、貧困は求めても訪れない。 P95

9. 孔子の書物に「禍福は、向うから訪れるのではなく、ただ人間が、それを招くのである」と記されているではないか。 P99

10. (1) キュウリを植えれば、キュウリとは別のものが収穫できると思うな。人は自分の植えたものを収穫するのである。

(2) 誠実にして、はじめて禍(わざわい)を福に変えることができる。

(3) 一人の心は、大宇宙にあってはおそらく小さな存在にすぎないであろう。しかし、その人が誠実でさえあれば、天地も動かさう。

(4) なすべきことは結果を問わずなされなくてはならない。 P100

11. 尊徳は「自然」と人間との間に立って、道徳的な怠惰から「自然」が惜しみなく授けるものを受け取る権利を放棄した人々を、「自然」の方へとひき戻した。

12. 手だてに困ったときの饑饉(ききん)の救済法

- 領主によって藩政の執行に命ぜられていた国家老(くにがろう)をおもだした聴講者とした講話 -

(1) 国が饑饉をむかえ、倉庫は空になり、民の食べるものがない。この責任は、治者以外にはないではありませんか。その者は天民を託されているのです。

(2) 民を善に導き、悪から遠ざけ、安心して生活できるようにすることが、与えられた使命ではありませんか。

(3) その職務の報酬として高禄を食(は)み、自分の家族を養い、一家の安全な暮らしがあるのであります。

(4) ところが今や、民が饑饉におちいつているのに、自分には責任はないなどと考えています。

(5) 諸氏よ、これほど歎かわしいことを天下に知りません。

(6) この時にあたり、よく救済策を講じることができればよし、もしできないばあいには、治者は天に対して自己の罪を認め、みずから進んで食を断ち、死すべきであります！

(7) ついで配下の大夫、郡奉行、代官も同じく食を断って死すべきであります。

(8) その人々もまた職務を怠り、民に死と苦しみをもたらしたからであります。

(9) 餓えた人々に対して、そのような犠牲のもたらす道徳的影響は、ただちに明らかになりましよう。 P104

12. (1) 万物には自然の道がある。

(2) 自然の道を探しだし、それに従わなくてはならない。それによって山は均<sup>なら</sup>され、海は排水されて、大地は我々の目的に役立つようになる。 P106

13. 一村を救いうる方法は全国を救いうる。その原理は同じである。

14. 当面ひとつの仕事に全力をつくすがよい。それがいずれ、全国を救うのに役立つからである。 P109

[ コメント ]

真岡市と合併した旧二宮町に居を構え、日光市と合併した旧今市市で一生を終えられた二宮尊徳先生から、世界的な大不況と破綻に頻した国家や地方財政の下で生きる我々が学ぶことは数知れない。何をしなければならないかは、西郷隆盛、上杉鷹山、今回の二宮尊徳の3人の先生、そして、村の先生である中江藤樹、仏僧の日蓮上人のお二人の先生から素直な心で学べば、すぐにわかる。今ほど、内村鑑三先生の「代表的日本人」を熟読し、自分の人格の一部にすべき時期はない。

政治家や経済人、官僚や教育関係者が心の底からこの「代表的日本人」と「後世への最大遺物、デンマーク国の話」を理解し、身につければ、国や地方の財政赤字はたちまちのうちに消え去り、人々の生活は劇的に変化する、また、アフリカの問題の大半も解決すると確信する。

- 2009年11月2日 ヨハネスブルクにて 林明夫記 -